

# ツキノワグマがブナ科堅果を樹上で採食する要因の検討：クマ棚の形成に影響する要因に注目して

栃木香帆子（東京農工大）・正木隆（森林総研）・中島亜美（多摩動物公園）・山崎晃司（東京農大）・稲垣亜希乃（東京農工大）・小池伸介（東京農工大）

キーワード：ツキノワグマ、ブナ科堅果、クマ棚

## はじめに

ツキノワグマ（以下、クマ）は木に登り、樹上で果実等を採食するが、樹上での果実採食を選択するプロセスには不明な部分が多い。例えば、クマは液果に対しては、成熟果実数が最大で果実の栄養価が高い時期に樹上で果実を採食することで採食効率を高めている可能性が知られている。しかし、ブナ科堅果（以下、堅果）の場合、クマは栄養的には未熟な状態の果実を樹上で採食することから、液果を採食する際とは異なった理由で、樹上での採食活動を選択している可能性がある。そこで、クマが樹上での堅果の採食を選択する要因を明らかにすることを目的に、堅果3樹種（ミズナラ、コナラ、クリ）を対象に、クマが樹上で果実を採食した際に作られるクマ棚の形成に各種因子がおよぼす影響について調べた。

## 方法

調査は2008～2014年に足尾・日光山地において行い、3樹種計242～481本を対象に8月末～9月初めに結実量を推定し、それ以降のクマ棚の形成の有無を確認した。

## 結果および考察

いずれの樹種においても結実量の多い木でクマ棚が形成されやすいこと、凶作年にはクマ棚が形成されやすいことが示された。一方、クマ棚の形成に影響する要因（結実量や結実豊凶）に樹種間差は認められなかった。また、豊作年と凶作年とではクマ棚の形成に対する結実量の影響度が異なり、凶作年では1本あたりの結実量が少なくてもクマ棚が形成されやすいことも明らかになった。また、結実量や豊凶のクマ棚形成への効果は、樹種によって変化しないことも明らかになった。

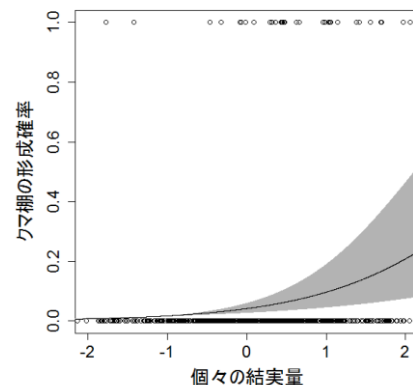


図. 結実木の結実量とクマ棚の有無の関係